

DERWENT-ACC-NO: 1998-123885

DERWENT-WEEK: 199906

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Flower holder used in flower
arrangement - uses water-absorbent material for covering
magnets and for supplying water to flowers

PATENT-ASSIGNEE: KANEKAWA K[KANEI]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0004910 (April 24, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 10005091 A		January 13, 1998	N/A
004	A47G 007/02		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP 10005091A		N/A	
1996JP-0212073	July 22, 1996		

INT-CL (IPC): A47G007/02, A47G007/06

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10005091A

BASIC-ABSTRACT:

The holder has a magnet (1) of predetermined size covered with water-absorbent material (2) and accommodated inside a container (3). The flowers (F) are inserted into the container, between holders. Water is supplied to the flower through the water-absorbent material.

ADVANTAGE - Ensures easy insertion and removal of flower between flower

holders, hence simplifying change in flower arrangement.
Provides flower
holder that can be used for long period of time.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.2/3

TITLE-TERMS: FLOWER HOLD FLOWER ARRANGE WATER ABSORB
MATERIAL COVER MAGNET
SUPPLY WATER FLOWER

DERWENT-CLASS: P27

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1998-098526

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-5091

(43)公開日 平成10年(1998)1月13日

(51)IntCl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G	7/02		A 4 7 G	J
	7/06		7/06	A

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-212073

(22)出願日 平成8年(1996)7月22日

(31)優先権主張番号 実願平8-4910

(32)優先日 平8(1996)4月24日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(71)出願人 594154163

金川 喜八郎

兵庫県神戸市西区狩場台2丁目12-1

(72)発明者 金川 喜八郎

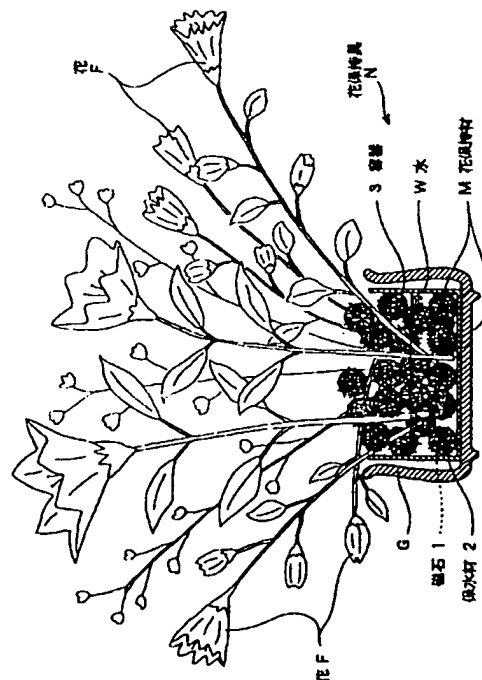
兵庫県神戸市西区狩場台2丁目12-1

(54)【発明の名称】 フラワーアレンジ用花保持材とそれをを用いた花保持具

(57)【要約】

【課題】 花を任意の位置に保持する花保持材として、再利用が容易に可能なものがない。

【解決手段】 所定の大きさの磁石1の表面を保水材2で被覆した花保持材Mをフラワーアレンジ用容器3に複数個詰めて使用すれば、互いに引き合う花保持材M間に花Fを挿入して保持することが容易にできる花保持具Nを形成することができる。花Fへの水Wは磁石1表面の保水材2から供給される。また、この花保持材Mは再利用することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の大きさの磁石の表面を保水材で被覆したことを特徴とするフラワーアレンジ用花保持材。

【請求項2】 請求項1記載の花保持材を複数個詰めることができるフラワーアレンジ用容器を設け、該容器に花保持材を詰めて互いに引き合う磁力によって花を保持したことを特徴とするフラワーアレンジ用花保持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この出願に係る発明は、花を任意の形態で保持するフラワーアレンジ用の花保持材と、その保持材を用いた花保持具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、この種の花保持材としては、吸水性スポンジが知られている。この吸水性スポンジを用いた花保持具としては、図3の使用状態を示す側断面図のように、所定の容器51に入れられた吸水性スポンジ52の任意の位置に花Fを差し込み、その位置の吸水性スポンジ52に穴を開けて花Fを保持するものである。Gは装飾用花器である。この吸水性スポンジ52に保持された花Fは、吸水性スポンジ52によって花Fの根元まで吸い上げられた容器51内の水Wにより開花した状態を保つことができる。この吸水性スポンジ52は、保水力も良好で、花Fを挿す位置を選ばないなど、優れた機能を有している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記吸水性スポンジ52は、一度花Fを挿すとその部分が空隙になって残るため、再利用しようとしても多くの空隙が残っているので任意の位置に新たな花Fを挿して異なる形態のフラワーアレンジを行うことができなくなってしまう。そのため、この吸水性スポンジ52は再利用されことなく廃棄処分されている。

【0004】一方、このような吸水性スポンジ52は難燃材であるため、廃棄処分する場合には処理に困るという問題もある。

【0005】

【課題を解決するための手段】そこで、上記課題を解決するために、この出願に係る発明は、磁石の表面を保水材で被覆して花保持材を形成している。これにより互いに引き合う花保持材の任意の位置に花を挿入すれば保持することができ、水は磁石表面の保水材から供給される。また、この花保持材は再利用することができる。

【0006】さらに、この花保持材をフラワーアレンジ用容器に複数個詰めて使用すれば、任意の大きさで、互いに引き合う花保持材間に花を保持する花保持具を容易に形成することができる。

【0007】

【発明の実施の形態】この出願に係る発明は、所定の大きさの磁石の表面を保水材で被覆することにより、花保

持材間に花を挿入すると、その部分の花保持材間は容易に離れるが磁力により引き合って花を保持することができる。この花には保水材から水が供給される。

【0008】また、上記花保持材を複数個詰めることができるフラワーアレンジ用容器を設け、該容器に花保持材を詰めて互いに引き合う磁力によって花を保持すれば、様々な形状の容器で、様々な形態のフラワーアレンジを行うことができる。この花には複数の保水材を伝って容器内の水が供給される。

【0009】

【実施例】以下、この出願に係る発明の一実施例を図面に基いて説明する。図1はこの出願に係る発明の花保持材を示す断面図であり、(a)は第1実施例の断面図、(b)は第2実施例の断面図、(c)は第3実施例の断面図である。

【0010】図(a)に示すように、磁石1は、例えば、5mm～10mm程度の球形のものを用い、その周囲を1mm～2mm程度の保水材2で被覆している。この磁石1としては互いに引き合う磁力を有するものが用いられ、保水材2としては内部に保水し易い材料が用いられる。

【0011】この保水材2としては、図(b)に示すように、5mm～6mm程度の化学繊維2Aを植毛することにより被覆した構成や、図(c)に示すように、1mm～3mm程度の不織布2Bを被覆した構成であってもよい。これら保水材2としては、水が浸透し易く吸い上げて保水し易いものであればよい。特に、多孔質の材質であれば毛管現象により水が浸透し易く保水効果もよい。また、この保水材2は常時水気を含んでいるため、防カビ加工や抗菌加工を施してもよい。

【0012】この保水材2を磁石1に被覆する方法としては、例えば液状化したスポンジ材料や紙材料を磁石1の表面に塗布した後に固着させればよい。この被覆方法は、保水材2を磁石1に固着できる方法であれば他の方法であってもよい。

【0013】以上のように構成された花保持材Mを用いた花保持具Nの使用状態を以下に説明する。

【0014】図2は上記図1(b)に示す花保持材Mの使用状態を示す側断面図であり、図示するように、フラワーアレンジする容器3に複数の花保持材Mを詰めており、この実施例では容器3を満たす程度入れて、容器3内に適当な量の水Wを注ぎ込んでいる。Gは装飾用花器である。

【0015】この状態で花Fを任意の位置に挿し込むと、花保持材Mは磁力により集合しているだけなので、花Fを挿した部分間では容易に離れて挿し込むことができ、挿し込まれた花Fは、その周囲の花保持材Mの磁力により引き合う接合力で挟んだ状態が保持される。

【0016】このように花保持材M間に複数の花Fを差し込んでフラワーアレンジしたとしても、その挿した位置の花保持材Mは隣接する花保持材Mから離れてこれら

花保持材M間で花Fを保持するので、花Fを任意の位置に差し込んで自由なフラワーアレンジをすることが容易にできる。

【0017】その後、アレンジしながら複数の花Fを差し込んで、差し込み位置の花保持材Mがずれて花Fを所望の位置に保持することができる。

【0018】この実施例では、花保持材Mを容器3に満たす程度入れているため、上方の花保持材Mの間に花Fを挿し込めば、この花Fをほぼ水平状態に保つこともでき、容器3の形状や大きさと花保持材Mの詰める量を調節すれば様々な形態のフラワーアレンジが可能となる。

【0019】しかも、花保持材Mに挿された花Fは、磁石1の周囲に被覆された保水材2により水分が保たれているので、この水を吸って長期間開花状態を保つことができる。

【0020】なお、上記実施例では、球形で同一径の花保持材Mを使用した例を示しているが、花保持材Mとしては多角形やその他の異形であってもよく、また、必ずしも全て同一形状の花保持材Mを使用する必要はなく、異なった形状や異なった径の花保持材Mを混合して使用してもよく、使用状態は上記実施例に限定されるものではない。

【0021】さらに、磁石1の大きさも、フラワーアレンジする大きさや花Fの種類に応じて上記大きさと異なる大きさを使用する場合もあり、上記実施例に限定されるものではない。

【0022】

【発明の効果】この出願に係る発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載するような効果を奏す

る。

【0023】花保持材によれば、互いに引き合う花保持材間で確実に花を保持し、また、一旦挿した花を任意の位置に挿し替えることも自由に行うことができるため、簡単にフラワーアレンジを変更することが可能となる。しかも、この花保持材は長期にわたり再利用ができるので、ゴミの発生も防止できる。

【0024】また、花保持具によれば、容器の大小に関係なく詰めた花保持材により任意の位置で確実に花を保持することができるため、フラワーアレンジの様々な形態に対応することが容易に可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この出願に係る発明の花保持材を示す断面図であり、(a)は第1実施例の断面図、(b)は第2実施例の断面図、(c)は第3実施例の断面図である。

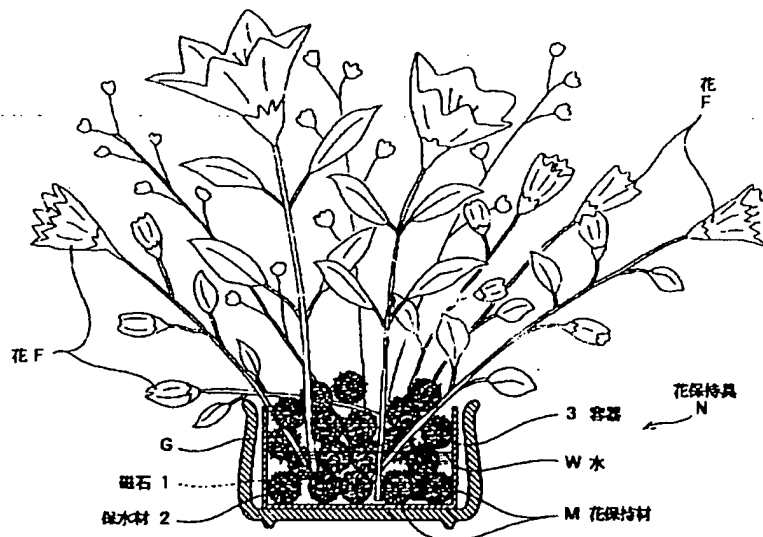
【図2】図1(b)に示す花保持材を用いた花保持具の使用状態を示す側断面図である。

【図3】従来の吸水性スポンジの使用状態を示す側断面図である。

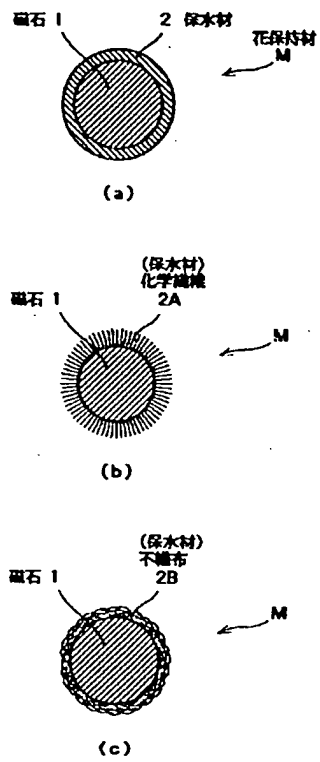
【符号の説明】

- 1…磁石
- 2…保水材
- 3…容器
- F…花
- G…花器
- W…水
- M…花保持材
- N…花保持具

【図2】



【図1】



【図3】

